

第4問

次の文章を読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。(配点 50)

A

ケバ

(注1) ちい

ていヲ

ニ

ク

(注2) スルガ

ヲ

メバ

聽_レ雷_ニ霆_ニ於_レ百_二里_一之_レ外_一者_、如_レ鼓_レ盆_、望_ニ江

河_ヲ於_レ千_二里_一之_レ間_一者_、如_レ縈_レ帶_、以_ニ其_一相_レ去_レ之_レ

遠_一也_。故_ニ居_ニ于_レ千_二載_一之_レ下_一而_レ求_ニ之_レ于_レ千_二載_一

之_レ上_一以_ニ相_レ去_レ之_レ遠_一而_レ不_レ知_レ有_ニ其_一變_一則_チ猶_ホ

(注3) 刻_レ舟_ニ求_レ劍_ヲ今_ノ之_レ所_レ求_ム非_ニ往_者所_レ失_フ而_レ謂_下

其_ノ刻_ニ在_レ此_ニ是_レ所_ニ從_テ墜_一也_上豈_ニ不_レ惑_乎。

B

今夫江戸者、世之所_レ称_{スル}名都大邑、冠_(注5)

蓋之所_レ集_{マル}(2)舟車之所_レ湊_{ニシテ}、実_ニ為_{タル}天下之大

都会也。而其地之為名、訪之於古、未之

聞。豈_ニ非_ズ古今相去日遠、而事物之變亦

在_{ルニ}于其間耶。蓋_(ア)知_ル後之於_レ今、世之相去

愈_(イ)遠、事之相變愈多、求_ニ其所_レ欲_{スル}聞_{カント}而不_{ルコト}

可_レ得、亦_タ猶_ホ今之於_レ古也。

吾^{ひそかに}窃^リ有^{ズル}感^{これに}焉。『遺聞』之書、所^{より}由^テ作^ル也。

(新井白石『白石先生遺文』による)

(注) 1 雷霆——雷鳴。

2 鼓^レ盆——盆は酒などを入れる容器。それを太鼓のように叩^{たた}くこと。

3 刻^レ舟求^レ劍——船で川を渡る途中、水中に劍を落とした人が、すぐ船べりに傷をつけ、船が停泊してからそれを目印に劍を探した故事。

4 大邑——大きな都市。

5 冠蓋——身分の高い人。

6 『遺聞』——筆者の著書『江関遺聞』を指す。

(下書き用紙)

国語の試験問題は次に続く。

問1

波線部(ア)「蓋」、(イ)「愈」のごごでの読み方として最も適当なものを、次の各群の

① ～ ⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は

29

30

(ア) 75ページ

「蓋」

29

① なんぞ

② はたして

③ まさに

④ すなはち

⑤ けだし

(イ) 75ページ

「愈」

30

① しぼしぼ

② いよいよ

③ かへつて

④ はなはだ

⑤ せいじなる

問2 傍線部(1)「千載之上」・(2)「舟車之所湊」のごごでの意味として最も適当

なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号

は ・ 。

(74ページ)

(1) 「千載之上」

- ① 高い地位
② 遠い過去
③ 重たい積み荷
④ 多くの書籍
⑤ はるかな未来

(75ページ)

(2) 「舟車之所湊」

32

- ① 軍勢が集まる拠点
- ② 荷物を積みおろしする港
- ③ 水陸の交通の要衝
- ④ 事故が多い交通の難所
- ⑤ 船頭や車夫の居住区

問3 74ページの傍線部A「聽雷震於百里之外者、如鼓盆、望江河於千

里之間者、如縈帶、以其相去之遠也」とあるが、それはどついついことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解

答番号は

33

- ① 聴覚と視覚とは別の感覚なので、「雷霆」は「百里」離れると小さく感じられるようになるが、「江河」は「千里」離れないとそうならないといふこと。
- ② 「百里」や「千里」ほども遠くから見聞きしているために、「雷霆」や「江河」のよつに本来は大きなものも、小さく感じられるといふこと。
- ③ 「百里」離れているか「千里」離れているかによって、「雷霆」や「江河」をどのくらい小さく感じるかの程度が違ってくるといふこと。
- ④ 「百里」や「千里」くらい遠い所にいるおかげで、「雷霆」や「江河」のよつに危険なものも、小さく感じられて怖くなくなるといふこと。
- ⑤ 空の高さと陸の広さとは違つので、「雷霆」は「百里」離れるとかすかにしか聞こえないが、「江河」は「千里」でもまだ少しは見えるといふこと。

問4 74ページの傍線部B「豈不^レ惑乎」とあるが、筆者がそのように述べる理由は

何か。「刻^レ舟求^レ剣」の故事に即した説明として最も適当なものを、次の①～

⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

34。

① 剣は水中でどンドン錆びていくのに、落とした時のままの剣を見つけ出せると決めてかかっているから。

② 船がどれくらいの距離を移動したかを調べもせず、目印を頼りに剣を探し出せると思い込んでいるから。

③ 大切なのは剣を見つけることなのに、目印のつけ方が正しいかどうかばかりを議論しているから。

④ 目印にすっかり安心して、船が今停泊している場所と、剣を落とした場所との違いに気づいていないから。

⑤ 船が動いて場所が変われば、それに応じて新しい目印をつけるべきなのに、怠けてそれをしなかったから。

(下書き用紙)

国語の試験問題は次に続く。

問5 75ページの傍線部C「其地之為名、訪之於古、未之聞」の返り点の付け

方と書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 35。

① 其地之為名、訪之於古、未之聞

其の地の名を為すに、之を訪ぬるに古に於いてするは、未だ之くを聞かず

② 其地之為名、訪之於古、未之聞

其の地の名為る、之を古に訪ぬるも、未だ之を聞かず

③ 其地之為名、訪之於古、未之聞

其の地の名を為すに、之きて古に於いて訪ぬるも、未だ之かざるを聞く

④ 其地之為_レ名、訪_ニ之於_レ古、未_ニ之聞_一

其の地の名の為^{ため}に、之きて古に於いて訪ぬるも、未だ之を聞かず

⑤ 其地之為_レ名、訪_ニ之於_レ古、未_ニ之聞_一

其の地の名為る、之を古に訪ぬるも、未だ之かざるを聞く

問6 76ページの傍線部D「遺聞」之書、所由作也」とあるが、『江関遺聞』が書か

れた理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番

号は

36

① 江戸は大都市だが、昔から繁栄していたわけではなく、同様に、未来の江戸も今とは全く違った姿になっているはずなので、後世の人がそうした違いを越えて、事実を理解するための手助けをしたいと考えたから。

② 江戸は政治的・経済的な中心となっているが、今後も発展を続ける保証はないし、逆にさびれてしまうおそれさえあるので、これからの変化に備えて、今の江戸がどれほど繁栄しているかを記録に残したいと考えたから。

③ 江戸は経済面だけでなく、政治的にも重要な都市となったが、かつてはそうではなかったなので、江戸の今と昔とを対比することで、江戸が大都市へと発展してきた過程をよりはっきり示したいと考えたから。

④ 江戸は大都市のうえに変化が激しく、古い情報しか持たずに遠方からやってきた人は、行きたい場所を見つけるにも苦勞するので、変化に対応した最新の江戸の情報を提供し、人々の役に立ちたいと考えたから。

⑤ 江戸は大きく発展したが、その一方で昔の江戸の風情が失われてきており、しかもこの傾向は今後いっそう強まりそうなので、昔の江戸の様子を書き記すことで、古い風情を後世まで守り伝えたいと考えたから。